

「学ぶ力」	
成果	課題
◇札幌市の共通指標から、課題意識をもって取り組み、他者との交流を生かして学びを深められたと実感する児童が増えてきていることが明らかになった。 ◇共通指標から「意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力」に関する肯定的な回答が増加してきた。	◇共通指標から、「人と学び合う方法」や「自分の伸びを実感して新たな目標をもつこと」に関わる肯定的な回答の割合が札幌市の結果よりも低く、改善の余地がある。 ◇児童アンケートや教職員アンケートから、家庭学習の習慣化が依然として課題である。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標の「自分が必要とされていると感じる」等の自己承認に関連する項目において、肯定的な回答の割合が増加している。一方、「人のよいところを見付けようとしている」「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」などの他者への承認に関する肯定的な回答の割合が低い実態がある。したがって今後は、課題探究的な学習や自治的な活動において必要感のある協働的な学びとふりかえりを充実させ、児童が自己承認と他者への承認を相互に働かせ、高めていくことが重要である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

つなげる力

	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
取組	◇学びの見通しをもち、課題を自分ごととして捉え、自ら学び進めていくことができるような単元構成 →必要感のある協働的な学びの展開 →自らの学びと学び方を実感し、次に生かそうとするふりかえりの充実	◇重点取組項目の一つ「子どもの笑顔をつなげる」と結び付け、子ども一人一人がつながる力の育成 →自ら、問い（～を考えたい、～を試みたい、～がわかるようになりたいという思いや願い）を抱くことのできる話し合いの場の設定 →子どもたち自身が活動の成果などを発信する活動を設定する ◇自校で作成している「豊かな心育成プログラム」に基づき、自分と友達を共に認めることができる力を育成する
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
◇自ら学び進めていく1つの手立てとしての生成AIの活用。 ◇自分の成果などを発信する場でのICTの活用（自分で方法を選択して）。 ◇ICTを活用することで児童それぞれの考えを可視化することで、友達との相違点に気づきやすくし、協働の必要感つなげていく。		

<本プログラムの実行に向けて>



